

	<世界>	1	2	3	4	5	
a期	自我在り	意識在り 自我無し	意識在り 自我無し	意識:顔 第三世界	意識在り 自我無し	意識在り 自我無し	超越者のエネルギー体は<世界>全体に均一に分散されている状態だが、超越者がパラダイムに与えられた無意識の影響により、意識は既に5つに分裂して存在している。しかしそれぞれの意識は<世界>の自我の一部という認識であり、個々の自我は芽生えていない。顔だけは、パラダイムと超越者の意識により生まれたという自我を持っている。
b期	自我在り	自我薄い	自我薄い	意識:顔 第三世界	自我薄い	自我薄い	超越者の意識により、均一に分散されていたエネルギー体が徐々に5つに寄り集まっていく。個々の意識はその動きに意識を持っていかれ、それら5つと重なった。個々の自我は芽生えつつある。エネルギー体に区画ははっきりされておらず、枠がはっきりしない。
c期	自我在り	自我8割 (主)	自我8割 (副)	意識:顔 第三世界 (副)	自我薄い (副)	自我6割 (副)	1と2に主副が形成されはじめる。個々の意識が自ずと相手に引かれる。区画の枠はまだはっきりしないが、ほぼ分かれてきている。自我もほとんど完成されているが、まだ<世界>としての意識の一部である認識が強い。地球はまだ生まれていない。(超越者の意識が、それぞれのエネルギー体はそれぞれの意識の物と認識しているため、エネルギー体はPhotoshopの指先ツールレベルで意識にひっぱられている。)
d期	1, 2	自我完成 地球 第一区画世界 主	自我完成 地球 第二区画世界 副	意識:顔 第三世界	自我4割 地球(押し付 け)	自我9割	1と2に完全に主副が形成されると同時に、個々の自我が明確に形作られ、それぞれが世界となる。1と2のエネルギー体の枠がはっきりする。地球は自我の形として1, 2によって用意された。その影響で、地球が3つできる。1と2にとって<世界>は自分、相手、その他と感じられていたため、1と2の自我成立に引っ張られ3つ目の地球が生まれた。しかし4は未だ意識が明確になっていなかったため、地球に意識が乗らず、地球と意識が離れて存在していた。4, 5に枠はまだはっきりと出来ていない。1にとっては3は外(観察者)で、5は小さすぎて認識していない。そのため、4の意識場「曖昧なままで5の意識ははっきりしていく。このころの4, 5は1, 2のc期。1の認識に引きずられて、4-5の主副関係は4が主。
e期	1, 2, 3	地球 第一区画世界 (観察者取り込み強 大化) 実 主	地球 第二区画世界 (スポイルされ気味) 実 副	観察者の集合 意識: GOD 虚	自我4割 地球(重なって いない) 虚 (主)	自我95% 虚 (副)	1が2を主として支配し、2がスポイルされかけて無表情。顔が分散して、1, 3へ散り、1に取り込まれていったので、1が強大化し、実としての意識を持つ。4, 5は実の投影としての虚であると1に認識されているため、4の地球は4の意識に引きずられてついていく。4の意識は未だぼんやりしているが、5は自我が明確であるため4の枠はまだ曖昧だが、5は区画世界として成り立っている。4は5を認識すると取り囲もうとする。それは<世界>がもともと持っていたため盲目的に植え付けられた、主が副を支配するというエネルギーによる挙動である。

f期	1	地球 第一世界 実	亡第二区画	観察者の集合 意識: GOD 虚 第三世界	自我: ガイア 地球(コントロール 中) 主 第四区画世界 →第五区画の一部	自我: 98%+精霊ガ イア →100% 虚 副 第五区画→ 第五区画世界	2は完全にスポイルされて、意識が<世界>全体に分散され、地球が崩壊し2に分散する(2の大きさは変わらない。色は均一に)。1は生きている意味を見失い、死を考え始める。5は2と同じように4の支配下におかれスポイルされそうだったので、GOD意識は精霊の元となる種を3で作り、5に植え付け、精霊ガイアを誕生させた。ガイアは5の状況を知り4の自我と自分の自我を統合し(この時点でガイアは精霊じゃなくなる)、4が5を取り囲むのを辞めさせ、代わりに一体化させようとした。その過程で4は膨れ上がり、ガイアが第四区画の地球を乗っ取りコントロールした。そのときの第四区画地球は、第四区画の一部であるという自我の無い意識は存在した。この時点で、[1と2]:[4と5]の大きさ比率は5:1。
	1	第一世界 実	亡第二区画	第三世界 主 虚	第五区画の一部であるとい第四区画の意識副虚	第五区画世界副虚	1は4, 5に対するコンタクト(干渉や観察)をやめ、この世を破壊する試みをはじめ(3には元々していない)。第四区画地球が第五区画と完全に重なり、地球と宇宙の形が出来上がる。4が5を支配しようとする力はまだ存在し、4と5の共存関係を作るため、ガイアは自らの存在をユグドラシル(植物の元)に変え、4と5を絡め取った(意識はガイアのまま)。ユグドラシルに絡め取られた4と5は、お互いをお互いの管理者と認定し、その身に植物を育て、ユグドラシルはそれを監視することとした。
	3	第一世界 副 (実)	亡第二区画	第三世界 主	第五区画地球である第四区画地球の自我意識と第四区画の一部であるという宇宙の意識副(主)(虚)	第五区画地球であるという自我意識副(副)	3は主となり、1は沈黙する(GODの一部の意識が超越者に意識を刈り取った。1は意識は消えていないが眠りに入っているような状態。)地球にはガイアの計らいにより生命が生まれ、それを監視するものとして、第三区画から神と呼ばれるものがGOD意識によって任命された。正確にはガイアが任命したのだが、ガイアの意識を統括しているのはGOD意識である。神は地球と宇宙に分散して配置され、この世界の管理人となった。
	4, 5	第一世界 (実)	亡第二区画	第三区画	第五区画地球である第四区画地球の自我意識と第四区画の一部であるという宇宙の意識主	第五区画地球として宇宙と地球を管理している自我意識副(虚)	4と5は幻の1に虚として支配され続けている。3にいるGOD意識の一部にもみたくない観察者のグループが、そのことを気付かせるために様々な働きかけを開始する。そのため人間が生まれた。人間は「神(この場合世界の創造神として認識される1)」の存在を否定し、そのためこの世界は崩壊した。(超越者のエネルギーを元にしてものは動きを止め、パラダイムのエネルギーが取り込まれている観察者のエネルギーを元にしていたものが動いている)
	—	亡第一区画	亡第二区画	亡第三区画	亡第四区画+第五区画地球である第四区画地球の自我意識と第四区画の一部であるという宇宙の意識主	亡第五区画+第五区画地球として宇宙と地球を管理している自我意識副(虚)	4と5は機械仕掛けがそのまま動いているかのように、世界が崩壊しても動き続けている。GOD意識はGOD意識を引き継いでいる生命たちをパラダイムに引き上げるため動いている。
	集合	亡第一区画	亡第二区画	亡第三区画	実		4と5は一体化し、魂と血の意識も融合した。どれが主でどれが副ということはない。